

K 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっていきます。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しすぎはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	1	2	3	4	5
0	0	●	0	0	0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

武士は、もともと戦闘に従事する専門家であり、先祖をもち、名字をもつ存在だった。武門の家に生まれた者は、「弓^(a)箭取る者の習」といった倫理観をもつことが要請され、生命よりも名を重んじた。これは、まさに新渡戸^(注)稲造のいう「武人階級の身分に伴う義務」であっただろう。

応仁の乱から戦国時代にかけて武士階級の裾野が広がる。名もない雑兵^(b)は、主君への忠義よりも利や命を惜しむ存在であった。しかし、依然として、城主レベルの武士は、厳しい自己規律を維持し、敗北した時は兵卒の身代わりとなって切腹した。彼らを支えていたのは、武門の家に生まれた名を惜しむ意識であった。

豊臣政権期の兵農分離を経て江戸時代に入ると、武士と農民や町人の境界にははっきりと線が引かれる。いやしくも武士身分となった者は、武士としての厳しい倫理を要求された。もし武士にふさわしくないとみなされた場合は、自己の属する藩社会から排除されることになる。武士の狭い「世間」⁽²⁾が成立したのである。

これまで「世間」の研究は、井原西鶴の浮世草子などにより、町人のものとしてなされることが一般的であった。しかし、町人は「世間」に背を向けてリヨクや恋愛に生きることが許されたが、武士にそういう自由はない。武士たちこそ細心の注意をはらって「世間の批判」を受けないよう行動していたのである。

いわゆる武士道には、明文化された規定があったわけではない。武士たちがもっている武士らしさのイメージの総和が「武士道」であった。言い換えれば武士が構成する「世間」の評判こそが「武士道」の規定となった。その武士の「世間」は、他の階級の「世間」に比べてはるかに厳しい倫理を要請したのである。

武士は、武士道に背いたと思われる場合は、もはや武士社会で生きていくことができない。武士の「世間」が、厳しい制裁を行うからである。そういうなかで武士は、他の階級の者とは比較にならないほど厳しい倫理観を身につけざるをえなかったのである。

新渡戸の名著、*Bushido* の日本語訳には「サムライはなぜ、これほど強い精神性がもてたのか？」という副題

がつけられているが、これに対する解答は明らかであろう。

個々の武士は、自らの内面的な倫理観だけでそういう精神性をもちえたのではない。厳しい「武士の世間」があつたからである。強固な意志で自らの行動を律していたと思われる武士 a 「世間」に左右されていたのである。

もし「世間の思惑」に背いた場合は、死ぬよりも苦しい立場に身を置くことは明らかだつた。武士の世間の非難、^(a)チヨウシヨウは言うまでもなく、自分の親や子供までが武士社会から爪弾きされる。^(a)先祖の名字は傷つき、家は断絶することになる。そういう事態に立ち至る前に、いさぎよく切腹して果てれば、恥をかくことにはならなかつた。

死が名譽であつた武士社会では、死ねば恥はそそがれるという合意がある。いさぎよい死は、b 返上の最後のチャンスだつたのである。

以上、武士の行動キハ^(b)ンが、「世間」によつて形成され、維持されていたことを述べてきた。武士が死を恐れな^(b)いというのは美徳であつたかもしれないが、それを強制したものは、死ななかつた時に予想される厳しい武士の「世間」の制裁だつたのである。

なぜ武士の「世間」は、そのように厳しいものだつたのだろうか。まず考えられるのは、支配身分である武士には、その身分に伴う厳しい倫理が必要であり、それがないと支配身分としての威厳が保てないという事情である。実際、武士はそういう存在であると理解されていたがために、百姓や町人ら被支配身分の者から畏怖と尊敬を受けていた。

しかし、それだけではないだろう。武士の「世間」には、嫉妬による悪意もあつた。江戸時代の武士は、支配階級の一員としてそれぞれが武士としての自尊心をもっていた。武名をあげ、栄達したいという欲求も人一倍もっている。しかし、武士として名をあげたり、栄達したりするのは、困難なことだつた。そのなかでたまたま栄達するチャンスをもにした者に対しては、激しい嫉妬心が芽生える。そして、何かあれば引きずりおろそうと思ふようになる。栄達しながら殉死しなかつた者への陰口などは、まさにそういう心理から出るものである。

武士は石高(二)のタカや役職の上下にかかわらず、武士身分であるという一点では平等の存在であった。下級武士が殉死するのも、そのような平等性を逆手にとった自己主張である。そのような武士身分の観念的な平等性が、武士社会のなかに多くの嫉妬の感情を生まれさせることになり、落ち度のあつた成功者に厳しい攻撃を加えさせることになつたのである。つまり、武士身分の平等性と待遇の不平等による嫉妬が、「武士の世間」を形成して、いた大きな要因だつたのである。

(山本博文『武士と世間』による)

(注) 新渡戸稲造——明治から昭和初期にかけて海外でも活躍した思想家、教育家(一八六二—一九三三)。

問

(A) 〓線部(イ)―(ニ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書かいていで記すこと)

(B) 〓線部(a)―(d)の読みを平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 a にはどのような言葉を補つたらよいか。左記各項の中から最も適當なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 は、実のところ 2 も、しばしば 3 であつても、やはり

4 ささえ、それなりに 5 こそ、最も

(D) 空欄 b にはどのような言葉を補つたらよいか。漢字二字で記せ。

(E) 〓線部(1)について。こうした身分に伴う義務は何故求められたのか。その理由を最も良く説明している一文を本文中から探し出し、最初の十字(句読点を含む)を記せ。

(F) ——— 線部(2)について。ここでの「世間」と同様の意味をもつものを1、そうとはいえないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 世間は広いようで狭い。 ロ 世間並みの暮らしがしたい。 ハ 世間に申し訳が立たない。

ニ 渡る世間に鬼はない。 ホ 世間の目をはばかる。

(G) 左記各項のうち、本文の趣旨と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 武士階級の裾野が広がることで武士の「世間」は成立した。

ロ 井原西鶴はもっぱら町人の「世間」を描いた。

ハ 武士の「世間」は内面的倫理観と共に武士の行動に影響を与えた。

ニ 武士の「世間」が武士道に反する行動に制裁を加えるのはひとえに嫉妬ゆえである。

ホ 石高や役職の差という待遇の不平等は観念的な平等意識の強い武士の不満を生んだ。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

朝のNHKニュースを何とはなしに聞いていたところ、〇〇党の幹事長が、XXの財源を確保するためには消費税を二パーセント上げる必要があるとの認識を示した旨をアナウンサーが伝えた(緊張感が欠如していたので〇〇とXXのところは聞き取れず)。

「認識を示す」というのは、エライ人が行うとても立派なことのように思われ、筆者も幹事長の⁽¹⁾響みにならつて何か認識を示したくなったので、その旨を配偶者に伝えたところ、「いいわよ、早く示しなさいよ」と言う。

「ウーンと、そうだな。それでは、今日の晩飯は、池袋で一緒に日本料理を食べたいという認識を示すぞ。何か変だ。

配偶者も負けずに、「そうすると、私が今外に干した洗濯物は誰がいつ取り入れるのよ、という認識を私も示すわ」。ますます変だ。

「エーと、それはだな、授業が終わった後でボクが一時帰宅して取り入れて、その後で池袋で待ち合わせればよいではないか、という認識を示すが、どうだ」。いくらかましましになってきたが、でもまだ変である。

どうやら、「認識を示す」と文末に付けると「認識を示した」ことになるわけではないようである。⁽²⁾

〇〇党の幹事長がわざわざ「認識を示す」と言ったのは(あるいは、NHKとして、彼は「認識を示した」のだと理解したのは)、彼自身としては消費税を二パーセント上げることに賛成でも反対でもない。ただ、XXの財源を確保するためには、二パーセント上げざるを得ないことをただ認識として示したのだと言いたかったからであろう。言いつばなしのままでは、こいつは賛成なんだとか、反対するつもりなのかとか勘繰られそうだからこそ、わざわざ「認識」として見解を示したわけである。

他方、筆者が今晚、池袋で日本料理を食べたいというのは、認識を示したところか、そうしようと提案しているわけだし、配偶者が洗濯物はどうするのかと聞いているのは、別に疑問を提示しているわけではなく、その語用論的な意味は「あなたが帰宅して取り入れてくれるんでしょうね」という事実上の命令だし、それに対する筆者の応答も認識の表明ではなくて命令の応諾である。

認識は評価とは違うし、実際の行動とも違う。言ったことの中身が評価や実践と紛らわしくて取り違えられそうなときには、認識であることをはっきりさせるべきだ、というのが「認識を示す」という言い回しが用いられるときの前提である。

認識と評価とは違うというときに、よく引き合いに出されるのは、^(注)デイヴィッド・ヒュームの、世の道徳理論家は、神は存在するとかこの世は斯く斯く然々であるという is や is not の言明から、直ちに ought や ought not の言明を引き出そうとするものだという指摘で、これは論理的に妥当な推論ではないというものである。「人性論」第三篇第一章第一節末尾)。これはヒュームの言う通りであろう。しかし、ヒュームはこのことから、何が善いか悪いかは、理性によっては判別することができないと結論づけているのだが、これは言い過ぎである。

たしかに、価値づけを含まないが命題のみから ought 命題を論理的に導出することはできない。しかし、だからといって、健康であることは善いことだ、とか、むやみに人を傷つけるのは悪いことだ、といったことが理性的に判断できないことになるわけではない。価値判断は人さまざままで何が善で何が悪かについて理性的な判別は全くできないという立場は理論的にありえないわけではないが、真つ当な普通の人がとる考え方ではない。「納税額をまったく増やすことなく、××の財源を確保することができればそれはとても善いことだ」という認識を幹事長は示した」とアナウンサーが伝えたとしても、⁽³⁾彼女は訳の分からないチンプンカンプンなことを言ったことにはならない。

□、だいたいの人がそうした価値判断を下すだろうというときに、わざわざ「認識を示した」とは言わない。人によって判断が食い違っていて、一定の判断を示すとトタンに論争が巻き起こって右からも左からも叩か

れそうであるからこそ、「認識を示した」ということばが使われるわけである。「価値判断は含まれていません」というのがそのガンインである。

しかし、全く含まれていないのだろうか。人々の行動をどこかに誘導しようという意図が全くないにもかかわらず、大政党の幹事長がわざわざ一定の認識を示して、その事実をNHKがわざわざ伝えるということがあるものだろうか。実際には、幹事長としては、Xの財源を消費税に求めるのであれば税率を二パーセント上げなくてはならないのだから、そうした選択をすることに肚を決めるか、そうしないのであれば別の財源を求めるか、あるいはXの実現はもう諦めるか、そろそろ議論を始める必要があること（場合によっては、早急に党としての態度を明確にする必要があること）を「認識を示す」ことで伝えようとしているはずである。⁽⁴⁾意味論上の意味を超えた語用論上の意味が、「認識」ということばには込められている。

結局のところ、あたかも価値判断を全く含んでいないかのように装いつつ、実は特定の価値判断を前提として人々の行動を一定の方向に誘導するためにこそ、「認識」は示されていることになる。となると、冒頭の筆者と配偶者との認識の応酬が何となく変であったのは、認識を示すといいつつ実は価値判断や行動の提案を含んでいたことにあるのではなく、要するに芸が足りなかった点にある。どうすればよいのだろうか。やり直してみると、

「われわれ夫婦間の関係は最近、おおむね良さを保ちつつあるとはいえ、ときには池袋の会席料理店で夕食をとるなどすると良好な関係のより一層の強化と維持に役立つであろうことが期待できる、という認識を示すぞ。この調子である。

「私が今外に干した洗濯物は夕刻前に誰かが取り入れないと日没後に上昇するであろう外気中の湿度の影響を受けて日中に干した効果が激減するであろうことが予想されるとい認識を私も示すわ」。これもまあまあである。

「その点については、授業が終わった後でボクが一時帰宅して取り入れて、その後で池袋での待ち合わせにノゾむという可能性の存在を認識することができるが、どうだ」。

違和感が全くなかったわけではないが（いずれにしても政争が結果として巻き起こるわけではないので緊張感が決定的に欠如している事実は覆いようもない）、前に比べるとだいぶましである。

それにしても、エライ人というのは、何かにやってももらいたいか、一緒に何かしようとか提案しようとする、随分と持って回った言い方をしなければならぬことがよくわかる。エライ人になるのも考えものである、という当たり障りのない認識を最後に示してむすびとしたい。

（長谷部恭男「憲法の imagination」にちよ）

〔注〕 デイヴィッド・ヒューム——スコットランド出身の哲学者、歴史学者、政治思想家（一七一〇—一七七六）。

問

(A) 〓 線部(イ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書で記すこと）

(B) 空欄 □ にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 たしかに 2 したがって 3 このように 4 とはいえ 5 ところで

(C) 〓 線部(1)について。この意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 その資格がないにもかかわらず、それがあふりをして
- 2 むやみにものまねをすることで、人をからかおうとして
- 3 その良否を考ることなく、やみくもに人まねをして

4 言葉だけでなく、その口ぶりまで再現しようとして

5 目上の人に接する時のように、緊張した硬い表情をして

(D) —— 線部(2)について。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 何かを言うことが、事実の表明とは異なる、評価や実践であることもあるから。

2 文の内容には、原則として賛成や反対の意思表示が含まれているから。

3 通常の会話においては、「認識を示す」という言い方は冗長だから。

4 認識は本人の主観的な問題であり、それを外部に示すのは困難だから。

5 「認識を示す」のもつ意味は、それを使う人によって異なるから。

(E) —— 線部(3)について。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 アナウンサー自身も報道内容に関し、理性的に善悪の価値判断を行うことが許されるべきだから。

2 価値判断に善悪の区別が存在しないとしても、事実それ自体を客観的に伝えることは可能だから。

3 納税額を増やすべきでないという点に関しては、すべての人の価値判断が一致しているから。

4 たとえ幹事長の価値判断が悪くとしても、「認識を示す」と付けることで事実の言明になるから。

5 すべての価値判断が相対的でその間に善し悪しの区別がつけられないというわけではないから。

(F) —— 線部(4)について。その具体的な説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 言葉の意味を探究することによって明らかになる、言葉本来の機能

2 単なる事実の表明にとどまらない、人々の行動を誘導しようとする意図

3 建前によって塗り固められた、言葉を用いる者が抱いている真の目的

4 命題が伝える内容とは別の、一定の価値判断を含んだopinion命題の内容

5 辞書に載っている使用例とは異なる、高度の「芸」を用いた表現技法

- (G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
- イ 幹事長は内心では消費税の増税に賛成していると推測できる。
- ロ *is* 命題から *ought* 命題を引き出すのは論理的に正しくない。
- ハ 筆者が「芸が足りなかった」というのは、配偶者を誘導する意図がなかったという意味である。
- ニ エライ人は緊張感をもって発言するので、「認識を示す」の使い方が上手である。

三 左の文章は後白河院が著した「梁塵秘抄口伝集」の一節で、後白河院が今様を遊女に伝授する場面である。これを読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

五月、花の頃、江口・神崎の君、美濃の傀儡子集まりて、花参らせしことありき。歌沙汰ありしに、「延寿、恋せば」と申す「足柄」をいまだ歌はぬとて、御所に習ひ参らせたまきを、え申し出でぬと、これかれに聞かれ候ふと言ふと聞きしかども、聞き入れぬやうにてありしほどに、季時入道して申し出だしたり。「いかでさる事はあらむざるぞ。さかさま事にてぞあらむ。我がためには名聞にてこそあれど、かたはらいたし。さはのあこ丸歌ふめるは。それに習へかし」と返事に言ふ。延寿、また申すやう、「いかさまにも習ひ参らせて候はむこそ、この世の喜びにては候はめ。あこ丸は、大進も小大進もみな知り候はぬを、誰に習ひたるぞとおぼつかなく候ふ。またこれらも、さ申せば、かたがたに」と申せば、「後にこそ。これら居る時ありて、聞き取られなむざるは。一人あらむ時に、さらば教へむ」と言ひしを、残り留まりて習はむと、いたく言ひしかば、乙前に、「いたく言ふ。いかに」と語りしを、「さ申さば、教へさせ給へかし。さやうにいみじがり申さば、さやうの料にてこそ候へ」と乙前申ししかば、夜々、二、三夜ばかりにぞ教へたりし。似せぬところも、かたはらいたく覚えて、え直さで、我よくなるまで歌ひてぞ教へし。その後、いとまごひしに、とくとてありしを、呼び返して歌はせて聞きしに、「神妙なり」と言はれて、

四 大声聞いかばかり 喜び よりも余るらむ
我らは来世の仏ぞと たしかに聞きつる今日なれば

と歌ひたりしかば、感にたへずして、唐綾の染め付けなる二衣を纏頭にしてき。折節に付けては興がりて覚えき。かやうに、男女これかれ、我に歌を習ふ者、その教ありしといへども、みな好みさしつ、終始習ふ者なくて、相継ぐ者なし。年来好みたる事に、たしかに伝えたる弟子の無き、口惜しきことなり。

(注)

- 1 江口・神崎の君——現在の大阪市東淀川区や兵庫県尼崎市あたりの川の港にいた遊女。
- 2 美濃の傀儡子——現在の岐阜県大垣市青藜町あたりの宿駅にいた遊女。
- 3 花参らせし——仏前に花を供える法会を開いたことをさす。
- 4 延寿——美濃の青藜出身の傀儡子。
- 5 「足柄」——今様のなかでも大曲とされる歌謡。
- 6 季時入道——藤原兼国の三男かとされる。
- 7 さはのあこ丸——美濃の青藜出身の傀儡子。
- 8 大進も小大進も——ともに美濃の青藜出身の傀儡子。
- 9 乙前——後白河院の今様の師。
- 10 四大声聞——釈尊の説教を聞いて悟った四人の弟子をいう。
- 11 唐綾の……——中国伝来の絹織物で、模様を染め出した二枚重ねの衣。
- 12 纏頭——褒美のこと。

問

(A) ——線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 どうしてもそうしなくてはならないだろう。
- 2 どのようにしてでも成し遂げたいものだ。
- 3 どのような事があったても問題ないだろう。
- 4 どうしてそのような事があったてよいだろうか。
- 5 どの程度習えばよいのであろうか。

(B) ——線部(2)「さかさま事」とは、具体的に何を言っているのか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 「足柄」を素人の後白河院ではなく、専門家に習うこと。
- 2 「足柄」を専門家ではなく、素人の後白河院に習うこと。
- 3 「足柄」を江口・神崎の君ではなく、美濃の傀儡子に習うこと。
- 4 「足柄」を師の乙前ではなく、素人の季時入道に習うこと。
- 5 「足柄」を師のあこ丸ではなく、他の専門家に習うこと。

(C) ——線部(3)の現代語訳を六字以内で記せ。

(D) ——線部(4)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 うらやましそうな様子
- 2 不審な様子
- 3 絶望している様子
- 4 不快な様子
- 5 はずかしそうな様子

(E) ——線部(5)は具体的にどういうことか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 周囲に大勢いた方が秘曲を学びやすいということ。
- 2 人が少ないと聞き取りがうまくできないということ。
- 3 誰もいない時の方が静かに話せるということ。
- 4 誰とでも親しく接していたいということ。
- 5 他の者がいると、秘曲を教えられないということ。

(F) ——線部(6)について。「いみじがる」の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 強く望む
- 2 腹を立てる
- 3 強がる
- 4 あわてふためく
- 5 声をあらげる

(G) 線部(7)の「我」は誰をさすか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 後白河院
- 2 延寿
- 3 季時入道
- 4 あこ丸
- 5 乙前

(H) 線部(8)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 いきなりやって来たのを
- 2 なかなか戻ろうとしないのを
- 3 すぐに退出しようとしたのを
- 4 いろいろ迷っていたのを
- 5 すっかりあきらめていたのを

(I) 空欄□にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 手
- 2 身
- 3 君
- 4 天
- 5 神

(J) 線部(9)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 徹底的に学んで
- 2 ひたむきに取り組んで
- 3 最初から嫌がって
- 4 好き嫌いが激しくて
- 5 途中で投げ出して

(K) 線部(イ)～(ホ)はそれぞれ誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なもの一つずつを選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

- 1 後白河院
- 2 延寿
- 3 季時入道
- 4 あこ丸
- 5 乙前
- 6 大進と小大進

【以下余白】